

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：31302

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K04528

研究課題名（和文）経営診断と品質マネジメントシステムの融合的公民館経営診断・評価技法の開発

研究課題名（英文）Development of Kominkan management diagnosis and evaluation techniques combined with management diagnosis and quality management systems

研究代表者

原 義彦（HARA, Yoshihiko）

東北学院大学・教養学部・教授

研究者番号：70284825

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、地域における生涯学習推進の中心的な施設である公民館の経営診断技法を開発し、その精緻化を図ることを目的とした。その結果、公民館の改善事例調査を手がかりに、公民館の経営診断に有効なリンクージ（「経営上の問題」、「改善・整備の成果」、「改善・整備の手だて」の組み合わせ）として、「コミュニティ事業への参加者・団体の減少」、「公民館の理解不足、認知度が低い」等を提示した。また、外国の成人教育施設の評価を参考にして、公民館の質を診断・評価する技法開発の視点を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究による研究成果の社会的意義には、公民館の経営や運営における実践的課題の改善に貢献できることがある。ここで提示した経営診断のリンクージの内容やそれに類似した課題を抱える公民館には、リンクージが示す「改善・整備」の手立てが有効な方法となる。また、学術的意義として、経営診断・評価の研究とその技法開発の方法論の向上、及び、経営診断・評価研究の一対象として生涯学習領域の確立の一助となることがある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to develop management diagnosis technique for “Kominkan”, which is one of the main institution for promoting lifelong learning in the community, and to refine it. As a result, with the help of a survey of improvement cases of “Kominkan”, linkages of “decrease in the number of participants/organizations in the community project” and “lack of understanding and recognition of community centers” were found. In addition, referring to the evaluation of adult education institution in foreign countries, the perspective of developing techniques for diagnosing and evaluating the quality of public halls was presented.

研究分野：教育学

キーワード：公民館 経営診断 評価 生涯学習施設

1. 研究開始当初の背景

公民館をはじめとする生涯学習施設については、中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」（2008年2月）にあるように、住民の地域社会への貢献やコミュニティづくりへの意識を高め、地域独自の課題や公共の課題に対応するような学習支援機能を強化するとともに、地域の社会教育推進の拠点となることが期待されている。地域における生涯学習推進の中心的施設である公民館には、地域の課題解決に向けた支援を行い、地域における「公共」を形成する拠点となることなどが求められている。全国の約14,600の公民館がその機能を発揮することで、地域の再生や創生に大きく貢献することになる。

これまで、公民館経営がこれらの期待に応えるべく適切に行われているか、あるいはそうでない場合は経営上の問題点を明らかにし、その改善案の提示を行う経営診断の技法の開発を行ってきた。ここでは、公民館の「経営上の問題（診断名）」、「改善・整備の成果」、「改善・整備の手だて」のそれぞれで設定される具体的な分類項目と項目間のリンク構造の必要性と、その開発可能性を提示した。しかし、これには、より多くのリンクが必要で、また、診断名、改善・整備の成果の定義、判断基準となる診断指標の開発等の精緻化の課題がある。

2. 研究の目的

わが国の地域における生涯学習推進の中心的な施設である公民館を取り上げて、公民館の経営上の問題点とその改善案を提示する経営診断技法を開発し、その精緻化を図ることを目的とする。さらに、問題改善志向である経営診断に経営プロセス志向の教育・学習サービスの質評価の観点を取り入れた、公民館経営診断・評価技法の開発とそのための方法を提示することが本研究の主要な目的である。具体的な検討課題として、①公民館経営診断のリンク構造、②外国の成人教育施設における質の評価と実践分析、③公民館経営診断・評価技法の開発と視点の検討を設定した。

3. 研究の方法

本研究における公民館経営診断のリンク構造の開発にあたっては、その枠組みを図1のように設定した。この枠組みを基本として、主に次の調査を行った。



図1 診断名—改善・整備による成果—改善・整備のリンク構造

<調査1> 公民館経営における改善事例に関する調査

(1) 公民館個別事例調査

調査対象（時期）：綾町中央公民館及び自治公民館（2018年3月）、山形市立南部公民館（2019年5月）、茅野市立中央公民館（2020年2月）、塩尻市立東公民館（2021年3月）、天龍村公民館（2023年2月）、飯田市立中央公民館（同）

(2) ウェブによる調査

長野県内の公民館249館を対象に、2021年12月にウェブを通じて実施。回答率28.5%。

<調査2> 外国における成人教育施設の評価に関する調査

(1) 個別調査

フォルケホイスコーレ（デンマーク）35校の聞き取り調査（2016年8月、2017年3～9月、2018年8月、2019年8月）、及びウェブ資料（68校）の調査。フォルクスホッホシューレ（ドイツ）の聞き取り調査（2016年8月）、フォルクホッグスコラ（スウェーデン）の聞き取り調査（2018年9月）等。

(2) ウェブ資料の調査

ドイツの成人教育施設における評価の現状について関わるウェブ資料の収集と調査。

4. 研究成果

(1) 公民館経営診断のリンク構造構築

ウェブによる調査では、改善事例について「充実・改善したいこと」（リンク構造の「公民館の診断名」に相当）、「取り組みによる変化や成果」（同「改善・整備による成果」に相当）、「充実・改善の取り組み」（同「公民館の改善・整備」に相当）の回答を求め、このすべてに回答のあった事例をもとに、リンク構造の構築作業を行った。その結果、新たな経営診断のリンク構造として、表1から表3を提示した。例えば、表1は、公民館が地域づくり推進委

表1 「コミュニティ事業への参加者・団体の減少」のリンク構造

診断名	コミュニティ事業への参加者・団体の減少
改善・整備による成果名	地域団体の育成と活動支援 住民の地域への関心の向上
改善・整備名	公民館の支援組織、団体の育成 組織、団体の育成、活動支援

員会の活動を支援することによって、この委員会が地域づくり事業に積極的に関わることになったという改善事例に基づくものである。そこで、診断名を「コミュニティ事業への参加者・団体の減少」としている。「改善・整備による成果名」は、通常は1項目であるが、ここでは「地域団体の育成と活動支援」「住民の地域への関心の向上」の2項目を挙げた。「改善・整備による成果名」は、どのような成果を期待するかによって変わるものである。地域団体の育成や支援を期待する場合は前者の項目、住民の地域への関心の向上を期待する場合は後者の項目になる。これらを実現するための「改善・整備」の方法として、「公民館の支援組織、団体の育成」「組織、団体の育成、活動支援」を設定している。表2は地域住民の交流の場に関する事例をもとにしたリンケージで地域住民の交流の場としての公民館施設の活用という点を、診断名の「公民館の理解不足、認知度が低い」としてとらえることにした。改善・整備による成果名は、ここでも2つを取り上げたが、事例から推察すると「住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上」だけでも良い。改善・整備名も2つあげており、1つは「学習成果発表の支援」としている。施設を利用した展覧会を学習成果の発表の機会の工夫と捉えたことによる。もう1つは、交流拠点としてのあり方の検討を挙げた。表3は「地元講師の育成」に関わるリンケージである。これは地元講師が講座等において講師として活躍することを意図したものとなっている。個別事例調査においても仮設的にリンケージを検討した。

表2 「公民館の理解不足、認知度が低い」のリンケージ

診断名	公民館の理解不足、認知度が低い
改善・整備による成果名	住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上 公民館の利便性向上、公民館の理解向上
改善・整備名	学習成果発表の支援 住民の交流拠点としての公民館のあり方の検討

表3 「地元講師の育成」のリンケージ

診断名	地元講師の育成
改善・整備による成果名	地元講師が指導者となる事業の実施
改善・整備名	地域の人材の掘り起こし 他施設、団体との連携の検討

「改善・整備による成果名」は、どのような成果を期待するかによって変わるものである。地域団体の育成や支援を期待する場合は前者の項目、住民の地域への関心の向上を期待する場合は後者の項目になる。これらを実現するための「改善・整備」の方法として、「公民館の支援組織、団体の育成」「組織、団体の育成、活動支援」を設定している。表2は地域住民の交流の場に関する事例をもとにしたリンケージで地域住民の交流の場としての公民館施設の活用という点を、診断名の「公民館の理解不足、認知度が低い」としてとらえることにした。改善・整備による成果名は、ここでも2つを取り上げたが、事例から推察すると「住民の交流促進、公民館における住民の交流機能の向上」だけでも良い。改善・整備名も2つあげており、1つは「学習成果発表の支援」としている。施設を利用した展覧会を学習成果の発表の機会の工夫と捉えたことによる。もう1つは、交流拠点としてのあり方の検討を挙げた。表3は「地元講師の育成」に関わるリンケージである。これは地元講師が講座等において講師として活躍することを意図したものとなっている。個別事例調査においても仮設的にリンケージを検討した。

(2) 外国の成人教育施設における質の評価と実践分析

デンマークのフォルケホイスコーレでは、各施設が学校の理念にあたる基本価値(værdigrundlag)を掲げ、それに基づいた評価が行われている。68校(2016年時点のすべての学校)の基本価値の記述を分析したところ、フォルケホイスコーレの基本価値は、全般的な傾向として、生(liv, livet)、共同体(fællesskab)、責任(ansvar)、尊敬(respekt)等のキーワードが用いられながら、学校の教育理念、教育方針として定式化している学校が多いことが明らかになった(表3)。また、その内容の具体性のレベルには幅があり、4類型に分類することができた。このような具体性のレベルによる類型に分けられる理由の一つに、各学校における基本価値の捉え方が多様であることがあげられる。基本価値を学校の理念として捉える学校がある一方で、それを目的、あるいは目標として捉えている学校もある。このような基本価値の捉え方と、それに基づく基本価値の定式化プロセスの違いによって、基本価値の内容と記述が異なってくる。また、これらの基本価値に基づく自己評価で行われている方法は、1) 教員から学生への口頭での質問による方法、2) 学生同士や教師と学生による討論、対話による方法、3) 学生への質問紙による方法、4) 教員とその他のすべての職員、学校委員会等との討論による方法、5) 個別の方法がある。

表3 基本価値の記述にみられる言葉

共通して用いられる言葉	学校数(%)
生、生きること、または、生き方(liv, livet等)	54 (79.4)
共同体(fællesskab)	37 (54.4)
民主主義、または、民主的(demokrati, demokratisk等)	35 (51.5)
責任(ansvar)	35 (51.5)
尊敬(respekt)	26 (38.2)

表4 基本価値の類型

基本価値の内容と具体性のレベルによる類型	学校数(比率)
1. フォルケホイスコーレの教育理念、教育観あるいは宗教観の記述を中心とした内容	25 (36.8%)
2. フォルケホイスコーレの教育方針、教育的提供の内容あるいは教育環境の記述を中心とした内容	30 (44.1%)
3. フォルケホイスコーレの教育方針(期待する学生の資質能力を含む)の記述を中心とした内容	9 (13.2%)
4. フォルケホイスコーレの教育方針(地域社会への貢献を含む)の記述を中心とした内容	4 (5.9%)

また、フォルケホッグスコラ(スウェーデン)では、全てのフォルケホッグスコラが質管理の計画をして、そのための仕組みを持たなければならないことになっている。フォルケホッグスコラの質を構成する枠組みとして、管理運営、教育環境、教育、手続き、の4つがあり、各フォルケホッグスコラは、この4点について独自の説明を作成することが求められている。各校では「プロセスデー」という日を設け、学校の全スタッフが丸一日をかけて自校の質向上について議論する機会を持つようにしている。これらをフォルケホッグスコラサービスクラス協会(FSO)の研究者が支援する体制が取られている。さらに、FB-Kvalitetというアンケートによる継続的なフォローアップにより質向上を図るネットワークが構築されている。ここでは、学生向け調査(学生自身の目標、予想できる将来的利益など)、教員向け調査(教育的事項の調査)、職員向け調査(職場環境調査)の項目が用意されており、これと連携することによりそれぞれの質問項目を利用することが可能になっている。多くのフォルケホッグスコラが、このネットワークを利用している。

フォルクスホッホシューレ（ドイツ）の質評価の取り組みでは、施設ごとに、ISOによる評価、LQWによる評価などが採用されている。

(3)公民館経営診断・評価技法の開発と視点の検討

長野県内の公民館調査によると、公民館の運営や事業の質としては、講座等のプログラムの内容(第1位, 73.2%), 公民館職員の資質(第2位, 67.6%)であった。さらに、公民館の運営や事業の質の維持・向上に必要なこととして、職員の資質向上(第1位, 71.8%)が最も多く、次に、講座等の指導者確保(第2位, 50.7%)であった。これらの公民館の質評価を行うとすれば、この点の評価は必要である。ただし、外国の成人教育施設の評価を参考にすると、各施設の理念(価値)、目標の設定と明確化、これに基づく評価方法の開発(枠組み、手法)が必要であり、さらに評価活動を支援する広域的なネットワークの形成が有効である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 原義彦	4. 巻 86
2. 論文標題 公民が集う公民館の再構築 - 公民館創設75周年の節目にあたって -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社教情報	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原義彦	4. 巻 40
2. 論文標題 日本生涯教育学会『年報』と『論集』における論考主題の推移 - 2009-2019年の分析を通して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本生涯教育学会年報	6. 最初と最後の頁 177-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原義彦	4. 巻 41
2. 論文標題 フォルケホイコーレの基本価値の類型化と自己評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 原義彦	4. 巻 192
2. 論文標題 公民館経営診断におけるリンクージ開発の予備的考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東北学院大学教養学部論集	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 原義彦
2. 発表標題 フォルケホイスコーレから日本は何を学んだか？
3. 学会等名 日本デンマーク外交関係樹立150周年記念シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 原義彦
2. 発表標題 A study on school value in Danish folk high school and its classification
3. 学会等名 45th The Congress of Nordic Educational Research Association
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 坂口 緑, 佐藤 裕紀, 原田 亜紀子, 原 義彦, 和気 尚美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミツイパブリッシング	5. 総ページ数 309
3. 書名 デンマーク式生涯学習社会の仕組み	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------